

# 会社も元氣・心も元氣・体も元氣

## ～山田方谷先生の備中松山藩の財政再建～

岡山県にも素晴らしい改革を行った人物がいた。その人物とは、皆様もご存知の山田方谷先生である。伯備線には「方谷」という駅がある。46歳で藩政改革に着手し、53歳で財政改革の目的をほぼ達成した。この考え方は、現代の企業経営においても十分に参考になると思います。

46歳で藩政改革に着手したが、まず、1月に藩の財政状況の詳細な調査に着手し、現状分析を行った。(正しい月次決算書で、**現状を知る**)次に、藩の現状把握後の6月に、藩主が率先して儉約に取り組む決意を表明し、トップ自らが儉約をし、改革に反対する者は厳罰に処することを表明した。さらに、方谷がNo.2となり、藩政改革については全権を委任しているため、方谷に対する悪口も一切許さないことを藩の重役会議で伝えた。(月次決算書を社員と読み**危機感を共有**)9月に儉約令を發布し、方谷自らが給料の大幅な削減を行った。(率先して**経費削減**)10月に粉飾の事実を正直に銀主(現在の銀行)に話すとともに、財政再建計画書を銀主に提出し、銀主に協力を求めた。(裸になって**銀行交渉**し、信用回復に努めた)11月に大幅な経費削減を実行。(会社全体で経費削減)

48歳で鉄や銅などの材料を販売するスタイルから、農機具や釘に加工するなどの産業振興を図り、付加価値のある新規事業を立ち上げ、利益も少しずつあがるようになった。(売上アップ)

52歳で利益が5万両出たため、農民の年貢を減らした。(利益が出たら還元)更には、学問所・教諭所を設置し、

教育施設の充実を図った。(将来に向けた人材育成)

53歳で財政改革はほぼ目的を達成した。その間、たった8年間であり、10万両の負債を返上したうえ、10万両の蓄財を行っている。10万両とは、現在の貨幣価値に置き換えると、100億円とも600億円とも言われている。

藩政改革に着手した当初は、なかなか効果が現れなかったが、仕組みをしっかりと整えて、効果が現れるまでやり続けることにより、ある時を境に急激に効果が現れ、いっきに改革を終了している。これは、企業経営や人生そのものにおいても、同じことが言えるのではないのでしょうか？

企業の生々流転を考えると、「創業期→成長期→成熟期→衰退期→?期」となるわけですが、衰退期に入る前に、是非とも企業内に変革を起こし、成熟期から再生期(第2創業期)に入り、再度、成長期となることが重要になるでしょう。

参考文献：野島 透『山田方谷に学ぶ財政改革 ― 上杉鷹山を上回る財政改革者』明德出版社、2002年。

深澤賢治『財政破綻を救う山田方谷「理財論」』小学館文庫、2002年。



### 三宅税理士事務所

財務コンサルタント  
経営学修士(MBA)

所長税理士 **三宅 孝治**

〒710-0803 倉敷市中島2370-14

TEL:086-466-1255

<http://www.cms-miyake.info>